

年度	科目名	課題領域	単位数		
2024年度	外国につながる児童生徒の教育II	日本語・教科の力の育成 異文化間能力の涵養	1		
授業の目的	1. 外国につながる児童生徒の実態を把握し、言語教育に関する専門的知識を学び、日本語指導／支援や、教科支援を行う力を養う。 2. 外国につながる児童生徒と周囲の児童生徒との相互作用を促し、双方の異文化間能力を養う。				
学修目標 (目標とする資質・能力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人児童生徒等の受入れ体制・指導体制に応じて、指導・支援を行うことができる。《育む力：ケ》</li> <li>第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。《育む力：コ》</li> <li>日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。《育む力：サ》</li> <li>子どもが新しい環境に適応することを支援できる。《育む力：ソ》</li> <li>子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。《育む力：タ》</li> <li>子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の子どもの学びに結びつけることができる。《育む力：チ》</li> </ul>				
各回の授業内容					
回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	10月6日 (日)	午前1 (90分)	科目ガイダンス 外国につながる児童生徒が学ぶ日本語プログラムとは(1)	日本語指導の内容や段階性を学び、初期の日本語プログラムの特徴を理解する。 ▷G, H	鹿嶋恵（崇城大学総合教育センター教授）ほか
2		午前2 (90分)	外国につながる児童生徒が学ぶ日本語プログラムとは(2)	複数の日本語テキストを比較し、児童生徒に合わせた指導・支援の在り方について考える。▷H, J	
3		午後1 (90分)	外国語として学ぶ日本語の特徴について知ろう(1)	「やさしい日本語」の考え方を学び、教科学習への参加支援について考える。 ▷G, H, J	
4		午後2 (90分)	外国語として学ぶ日本語の特徴について知ろう(2)	リライト教材の考え方や実際に学び、教科学習への参加支援について考える。 ▷G, H, J	
5	10月13日 (日)	午前1 (90分)	発達段階に合わせた日本語や教科の指導・支援とは(1)	JSLカリキュラムの考え方について学び、小学生への実践事例を読み解く。 ▷H, I, J	
6		午前2 (90分)	発達段階に合わせた日本語や教科の指導・支援とは(2)	JSLカリキュラムの考え方について学び、中学生への実践事例を読み解く。 ▷H, I, J	
7		午後1 (90分)	学習参加に必要な支援と学習環境づくり(1)	在籍学級での学習支援の方法を学び、周囲の児童生徒との相互作用を含めた学習環境づくりについて考える。▷J, K	
8		午後2 (90分)	学習参加に必要な支援と学習環境づくり(2)	キャリア形成とことばの力の関連性について学び、児童生徒の自己実現の方法について考える。▷J, K	
履修条件		現職教員及び教員免許保有者（大学院生を含む）			
評価の方法		授業への参加、事後アンケート			
<p>表中の《育む力：ケ～チ》の記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」を、また、▷A～Nの記号は同じく教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、次の文献のpp. 5-10を参照。公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（<a href="https://mo-mo-pro.com/report">https://mo-mo-pro.com/report</a>）</p>					